
私にサクラと言う名前をくれたあなた

真朝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私にサクラと言う名前をくれたあなた

【コード】

N89000

【作者名】

真朝

【あらすじ】

過去小説なので、グダグダです……。

私は造られた人間。 人造人間。

人を守る為に造られた人造人間。

人造人間には掟がある。

「主を全力で守れ」

「主の命令に逆らうな」

「人を愛するな」

以上の事を破ると、排除となる。

私には主がいる。 名前は「アキラ」。 主は私に「名前は？」と、聞いて

きた。 私は「ありません」と、答えた。

すると、主が私に名前をくれた。 主が私の主になった時に、私は「サク

ラ」になった。

主には家族がない。 主が子供の時に死んでしまったそうだから、この話を

してくれた時の主の顔が、とても悲しそうな顔だったから、私はつい「主

には私がいいますから」と言ってしまった。主は少し驚いたような顔をして

から、穏やかに笑った。

主に恋人が出来た。とても優しくて、綺麗な恋人が。

それから月日が流れて、主に家族が出来た。小さくて可愛い子供が。

主に家族が出来てから、私はあまり動かなくなった。主の家族が全てし

てくれるから。家事も、主の見送りも。「私はもう必要ないのでですか？」

そう主に聞いてみると、主は悲しそうな笑みを浮かべてから、「そんな事

は決して無いから。大丈夫だから。サクラは僕にとって、必要だよ」と、

言ってくれた。次の日から、主も主の家族も皆が、私にたくさん話し掛け

てくれる様になった。

ある日、主の家族が死んだ。車に轢かれたそうだ。主はあまり動かなかく

なった。対照的に、私はたくさん動くようになった。主の家族が死んでし

まったのに、どうしてだろう？私は全然悲しくない。造られた人間だか

ら？主の家族がいなくなってから、私は主と過ごす時間が増えていった。

主が少しずつ立ち直ってきた。ずっと休んでいた仕事にも行き始めた。

笑顔が戻り始めた。だけど、その笑顔は弱々しかった。今の主には何か

足りない。その何かは私には分からない。

主が壊れた。突然暴れ始めた。家の物を何もかも壊し始めた。

私は主を病院に連れて行った。医師は「精神への負担が問題だ」と、言

った。私は医師に「主は……、何か足りていません。家族を亡くしてか

らです。立ち直ったと思っていたのですが」と、言ってみた。すると医師

は「彼は幼い時に家族を失っているからね。また大切な家族を失っ

たん

だ。すぐに立ち直れはしないだろう。そうだね……、彼に足りていないも

のは、きっと愛だろうね」

そう医師は答えた。そうか。主には愛が足りていないのか。主と主の家族

は、愛で結ばれていたのか。主の笑みが弱々しかったのは、無理を
してい

たからか。

私達人造人間には、自動的にリミッターが掛けられる場合がある。
それ

は、人間を愛してしまいそうになった時。

私にもそのリミッターが掛けられていた。私は、一体主達の中の
誰を愛

しそうになったのだろうか？リミッターが掛けられると、その時の
気持ち

はもちろん、記憶も制御されるのだ。

リミッターを外す事にした。リミッターを外すのはとても簡単な
こと

だ。ただリミッターを外すイメージをすれば、それで外れてしまう。
リミ

ッターを外す事は、掟には書いていないが、排除対象になる事だ。
でも、

今の私にそんな事はどうでもいいことだ。私が主達を愛しそうにな
った時

の記憶と、気持ちを思い出したい。それに何よりも、主を愛して救
ってあ

げたい。私が愛しそうになったのは、主じゃないかもしれない。で
も、愛

の気持ちを知ると主を愛する事が出来る。主は、人造人間である私
の愛

を、受け入れてくれないかもしれない。それでも良い。やってみる
価値は

あるのだから。

私には幸せになってほしい。新しい家族を作ってほしい。それは、
私の

エゴかもしれない……。けど、主には過去ではなくて、今を見てほ
しいか

ら。

リミッターの外れる音が、私の身体の中に響いた。それと同時に、
たく

さんのあたたかい気持ちや、主達の笑顔が流れ込んできた。よかつ
た。私

は、主の事を、主達の事をちゃんと愛していたんだ。これで、主の
事を救

える。

突然私の目から水が溢れてきた。これは、人間で言う涙と言つても
のだろ

う。次々と涙が零れ落ちてくる。私は人間人間なのに……。「悲し
い」言

う気持ちは博士が消していたはずなのに。なのにどうしてだろう？
主の家

族たちの死が、今になってとても辛く、

悲しく感じるのは……。私は、主と同様に、主の家族も愛してい
たん

だ。

私は主の部屋に入って行った。主はベッドの上で寝転がっていた。

主を座

らせてから、私は主の隣に座った。そして、ずっと主に見せたかった表情

を、言葉を伝えた。

「主、私は、サクラは、主の家族の代わりになんてなりたくてもなれませ

ん。でも、私は心の底から主を、サクラに名前をくれたアキラの事を」

愛しています

初めて私は、主に笑顔を向けれた。気持ちを言葉にして伝えれた。人造

人間にとっての最大の禁忌であつて、排除対象である言葉を。

主の目がしっかりと私の目を見ている。いつ以来だろう。主と目を合わ

せるのは。その主の目から、涙が零れ始めた。

主が私を抱きしめた。強く、でも優しく抱きしめた。主は何度も「はじめ

ん。ごめん。サクラがいたのに……！ごめん」と、繰り返していた。

私は泣いている主の頭を撫でながら、視界が黒くなってきているのに気が

付いた。すでに内部から、排除が始まっているようだ。

「アキラ、アキラ。サクラはアキラに、今を生きてほしいのです。サクラ

は、人造人間です。だから、アキラを愛する事は出来ても、アキラの胸の

中にある穴を埋める事、は、出来ません。アキラは、まだ、若いのですか

ら、新しい家族を、作って、下さい。それが、サクラにとっても、主の家

族、に、とっても、幸せな、コト……ダカラ」

まともに喋れなくなってきた。主が、必死に私の肩を揺らしている。

「アルジ、ソンナニ、揺らサレルト、頭ガ」そう言うと、主は私を揺らす

のを止め、とても悲しそうな目で私を見た。人造人間達の掟は、主も知っ

ているはずだ。

「君は……馬鹿だよ。こんな僕のために……錠を破るなんて」

やっぱり知っていた。「ゴメンナサイ。でも、サクラニトツテ、アルジ

は、とても大切だから……」主がまた私を、強く抱きしめた。

「アリガトウ、ゴザイマシタ。あ、るじ」

視界が全て闇に染まった。出来れば、主が幸せになるまでを見届けたか

った。

本当にありがとう……。また、いつか

完全に意識が途切れる寸前に、私は確信した。主はきっと幸せになる

と……。

だって、最期に見た主の、アキラの顔は、初めの頃の穏やかな笑みだったから……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8900o/>

私にサクラと言う名前をくれたあなた

2010年11月13日21時11分発行